

# 元気おおとよ新聞

## そば物語 ～脱穀編～

大豊町のそば作り文化を後世に語り継ごうと始まったそば物語！いよいよ完結！



**8**月に蒔いたソバの実も、11月頃に収穫ができ一安心。  
ハウス内で乾燥させていたソバも新年あけた1月にはNPOメン  
バーで脱穀することができました。

近年では、汎用コンバインでの収穫、脱穀が増え、機械での乾燥が  
行われますが、私たちは脱穀機を使って脱穀をしました。なかなか脱  
穀機が見つからないと思ったら、一気に3台も借りられることに！3台  
の脱穀機をフル稼働させ、みんな初めての脱穀作業で慣れない手つき  
の中、なんとか1日ですべてを脱穀できました。

今回が私たちNPOでの初めてのそば栽培となりましたが、結果60キ  
ロのソバの実を収穫することができました。このソバを使って、ソバ  
打ち教室やおおとよガレットを作っていけるのかなと思うと楽しみで  
仕方がありません。その前にメンバーで試食も試してみようかとわく  
わくしています。

今回の栽培での反省点や課題も見つかり、今年はもっとうまく作り、  
これを継続していけたらと思います。（中平）

## 移住者紹介のコーナー

今回は埼玉県出身で大田口東寺内地区に  
移住された大塚さんをご紹介します！

おおつか ゆうの  
大塚 友野さん



～大塚さんの作品～



乾漆小皿



乾漆花入



蟻絵小皿

**大**塚さんは埼玉県の出身ですが、香川県で漆の  
勉強をしている時に、初めて高知県に遊びに  
行き、海がきれいなところ、自然林が多いところな  
どが気に入り、将来は高知に移住したいと思って  
いたそうです。

神奈川県でしばらく修業したあと、作品を作るに  
あたって自然の中にある虫や景色などの観察対象が  
欲しいと思い、移住したいと思っていた高知県のこ  
の大豊町に移住を決意したそうです。

現在は何人かの仲間と東京で展覧会を開いたり、  
作品を売ったりして生計を立てているそうです。  
モノ作り全般が好きなこともあり、借りた空き家の  
改装もしながら、大豊での生活を楽しみ始めていま  
した。以上、移住者紹介でした！（中平）

## 平成28年度 移住相談・移住実績

▼ 移住相談	電話・メール・来町	91件
▼ 移住実績	(2月末現在 / 3月末見込み)	
移住組数	11組	14組
移住人数	16人	27人

## パソコン出張相談

- ▶ ワードやエクセルを使って、チラシや書類を作りたい
- ▶ ブログやフェイスブック、ツイッターをしたい
- ▶ インターネットで買い物をしたい
- ▶ 年賀状を作りたい、などなど...



あなたの「やりたい事」を 応援しにご自宅まで伺います！

## おおとよガレット 出店予定



3/26 (日)  
お山の手づくり市  
本山・帰全山公園

5/20 (土) 21 (日)  
ヴィレッジ2017  
高知市・鏡川みどりの広場



# 空き家・アルバイト情報求む！



あなたの住む集落で

「貸したい／売りたい」空き家をご存じないですか？  
 大豊町での暮らしを望む方がいます。  
 文化・風習を継承したい方がいます。  
 貸しても（売っても）いいという家主さんがいたら  
 ぜひご連絡ください！

**空き家について** 例えば、こんな場合でも大丈夫です！



荷物がいっぱいでも大丈夫。  
是非ご連絡ください！

修理は入居者負担、その分お家賃を安く...

薪風呂や木製サッシに憧れている人が多数います。

## アルバイトについて

移住を検討している方は地域のアルバイト情報などを必要としています。

ゼンマイ、お茶、ゆずの収穫など、短期のアルバイトさんを探している方、ぜひ情報をお寄せください。

**空き家・アルバイト**に関する情報を募集しています。

お気軽にお問い合わせください。

電話 **080-8635-2253**

担当：野田 受付 9:00~19:00

## まずは、お気軽にご相談ください！

## フェイス to 地球温暖化



大量発生するアンドンクラゲ(行灯水母)

小学校の遠足、お昼のお弁当の後始末の時のきまり言葉は「次に来る人たちのためにも、来たときよりきれいにして帰りましょう」。さて遠足の場を地球に置きかえて考えてみたらどうでしょう。我々は、子どもや孫や次の世代にどんな地球を残していけるのでしょうか。

パリ協定以後、温暖化にまつわる報道や情報はぐっと減ったように思いますが、先日の高知新聞に「宿毛湾に新種クラゲか」の記事がありました。黒潮生物研の研究員の言葉は「温暖化などで南方系種の北限が上がってきていることも考えられる」。外来種の日本への移動や定着および北上については、昨年NHKテレビの「クローズアップ現代」などで取り上げられました。大量発生のおうえ千葉沖などにも温かい海水温を好むイタチザメの出現、各地の海水浴場にアンドンクラゲ、デング熱のウイルスを媒介するヒトスジシマカ、石川県で死者を出したマダニ、3年間で対馬全域に繁殖を広げた凶暴なツマアカスズメバチなどが紹介され、人体のみならず漁業や農業への深刻な影響も報告されました。その番

組の最後に国谷裕子キャスターの「今後増えるだろう外来種をコントロールするために何が一番のカギになるか？」の問いがありました。国立環境研究所の首席研究員は「貿易の自由化で外来種が見えない形で入ってくるのが予想される。まず外来種に対する意識を国民レベルで高く備えておくことが重要で早期発見、早期対応のシステム化を図ることが肝要。在来種が大きく数を減らし外来種がそれに追い打ちをかけ絶滅の恐れもあるということへの理解が大切」と述べていました。

そして今年の2月の高知新聞。香美市で地球温暖化防止に向けてのいわゆるクールチョイスを呼びかける講演会の中で小学生による環境学習の取り組みが発表されたとの記事が掲載されました。またその内容は3月のテレビ(テレビ高知)で放送されました。このような取り組みが少しでも広がればと願いながら、先にあげた国立研究所の首席研究員の「まずは意識や理解が大切」の言葉を思い出しました。(下村)



高知県内の小学校でも地球温暖化防止の取り組みが始まっています